

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	せんだいメディアテーク
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数：施設貸出利用者数》 平成29年度 397,793人（前年度比 104.8%） 平成28年度 379,598人（前年度比 90.5%） 平成27年度 419,272人（前年度比 93.7%）
		《事業》 上記の施設貸出の他、情報サービス事業、デジタルアーカイブ事業及び活動支援事業を行っている。 ○情報サービス事業 ・映像音響ライブラリー 貸出件数 63,678件 ・視聴覚障害者情報ライブラリー 貸出件数 2,735件 ○デジタルアーカイブ事業 ・「3がつ11にちをわすれないためにセンター」 など ○活動支援事業 ・とぶらすウィーク（図書館連携） ・バリアフリー音声パソコン講座 など
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 569,873千円（566,714千円） ・その他市が負担した費用 59,489千円（4,220千円） 《収入》 ・使用料収入 75,494千円（64,031千円） ・その他収入 3,480千円（2,923千円）
		（ ）は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 平成29年12月に、施設の利用者にアンケートを実施した。アンケートは、各質問項目について5段階で評価されている。「職員対応」については、8割以上の方から「とても満足」・「満足」の評価をいただいでおり、「総合的な満足度」においても8割以上の方が「とても満足」・「満足」と回答している。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	職員は施設の設置目的を理解しており、施設運営や事業実施に活かされている。また、市民活動や外部機関と連携した事業を行うほか、定禅寺通りに面した立地条件を活かし、市の事業をはじめ施設周辺で実施される文化活動への協力が行われている点も評価できる。	S
II 施設の運営管理体制	災害発生時の誘導体制や、施設内で事故が発生した場合の連絡体制が非常に明確になっており評価できる。個人情報保護・情報セキュリティ・事故対応のための研修など、年間を通じて、各種研修を実施し、施設の運営管理を適切に行えるよう努力している。また、システム担当者を複数人配置し、セキュリティ対策を実施している点や、設備、清掃等委託業者とミーティングを重ね、情報共有、改善対応を行っている点が特に評価できる。	S
III 施設・設備の維持管理	施設の保守点検や清掃などが適切に行われており、利用者が常に安全に利用できる状態を保っている。また、警備員の巡回も適切に行われており、利用者へ安全で安心感のある環境を提供している。更に、空調設備の省エネ運転や、トイレの節水対策を行うなど、仙台市環境行動計画に則った取組みを確実に実行している。特に、光熱水費の削減については日々のエネルギー使用量を記録し、分析を行うことで効率的な館運営に取り組んでいる。	S
IV サービスの質の向上	施設利用者が使いやすいように、窓口やHPでの情報提供方法に工夫をしており、施設利用率も高い。利用者からのご意見やアンケート結果は、職員が情報を共有し改善に努めている。施設特性上見学者の多い施設であるため、多言語に対応できるよう職員を配置するほか、幅広い層に向けたパンフレットを作成している。	S
V 施設固有の基準	施設貸出や使用料徴収などの管理業務は適切に行われている。各種講座、市民等との協働事業を実施し、市民への生涯学習活動への支援が適切に行われている。事業実施にあたっては、市民が参加しやすい工夫がなされているほか、関係団体と良好な関係を築きながら行っている点が評価できる。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	3がつ11にちをわすれないためにセンター	震災直後の平成23年5月に開設して以来、市民、専門家、メディアテークの協働により、東日本大震災からの復旧・復興のプロセスを市民自らが独自に記録するとともに、集積されたさまざまな記録(映像、画像、音声、テキストなど)を整理保存し、上映会や展示などに活用している。 平成29年度は、これまでの活動をまとめた書籍『コミュニティ・アーカイブをつくろう!「3がつ11にちをわすれないためにセンター」奮闘記』を出版し、あわせて記念フォーラム「草アーカイブ会議2『コミュニティ・アーカイブってなに?』(12/24-25)を開催。各地で草の根的に展開されているアーカイブ活動の意義について、国内外からのゲストと共に考えた。
2		
3		
加点評価		A

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
<p>【施設の運営管理】 仙台市と協議を行いながら、協定書等に基づき適切に行いました。指定管理料については、委託業務や賃貸借等を複数年契約や再リース等により費用の抑制に努めました。また、光熱水費については、ギャラリーの24時間空調等により、電気・ガスの使用量が目標を超過しましたが、前年比1～2%削減目標に向けて、節減に努めました。29年度は28年度と比較すると、施設利用率はほぼ横ばい状態ですが、施設使用料が約5%増収となりました。この要因としては、28年10月からの使用料改正に伴うものと考えられます。</p>	
<p>【危機管理】 市民図書館とテナント2者を含む4権原者により「自衛消防協議会」を設置し、年2回実施する自衛消防訓練を検討するなど、複数権原者が協力して防火・防災に当たることで危機管理体制を強化し、利用者の安全を第一とする運営を行いました。日常的な来館者の緊急事態については、救急車要請を含め適切で素早い対応を行いました。</p>	
<p>【施設管理】 耐用年数を超えた設備や経年劣化した設備の修繕を主とし、古くなった貸出機材等の入れ替えも実施しました。また、警備・清掃・設備をはじめとする委託業者との連携を密に行い、適切かつ安全な運営に努めました。</p>	
<p>【利用者からの声】 当財団内共通項目でのアンケートを、有料施設利用主催者及び展覧会入場者に対して実施したところ、概ね満足をいただいている結果となりました。また、施設貸出しにおける日々の利用者アンケートや、受付等に寄せられたお客様からのご意見をもとに、利便性の向上に努めました。併せて、1階に設置したご意見箱から日々寄せられるご意見についても改善等につとめ、当該内容の掲示を行いました。日々の職員間の情報共有は、サーバー上の掲示板のほか、朝の打合せや業務日誌への記載等で行い、施設運営に活かすよう努力致しました。</p>	
<p>【映像音響ライブラリー】 資料貸出やレファレンス、ボランティアと連携した障害者向けサービスなどのライブラリー業務に併せ、来館者の様々な問い合わせへの的確で丁寧な対応に努めました。また、事業記録や地域文化アーカイブなど自主事業と連携し、資料の公開、提供を行いました。</p>	
<p>【自主事業】 展覧会は「コンニチハ技術シテノ美術」と題して、もとは同じ意味であった「技術」と「藝術」が、近代化の過程で意味を分ち、どちらも日常生活とは距離を持って存在しているかのようなこれらとの関係について、改めて表現をおして問い直す作品を展示しました。東北で表現活動を行う美術家、あるいは震災以降の東北に関心を寄せる気鋭の美術家がメディアテークの特性を活かし、それぞれの視点から表しました。 スタジオ協働事業では、「考えるテーブル」を中心にした対話型の公開会議の開催や、7階ラウンジを活用した展示に加え、「メディアスタディーズ」として公募したアートやメディアにまつわる様々な文化活動との協働を行いました。 地域文化アーカイブでは地域文化資料のデジタル化を行い、ライブラリーへの配架と保存、ウェブサイトでの発信等により、広く市民が活用できる「財」としました。 さらに館長を軸としたトークシリーズの実施や地域文化団体との連携事業の実施、バリアフリー・デザイン事業の実施などにより、メディアテークの特性や総合的なアクセス機能の活性を促すなど、時勢に応じた魅力ある事業の展開に努めました。 smtホスピタリティ向上事業では、「こどもスクエア」を実施し、子育て世代の親子連れや児童の利用促進に向け、館内の様々な空間を効果的かつ魅力的に活用する試みとして、親子で遊べる安全な「場」づくりを行いました。 また「シネバトル」と「トークサロン」を交互に開催し、2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図り、映画文化の活性化、利用者間の交流場を作り出しました。 地域文化連携・施設活用推進事業として、各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担う様々な「まつり」「行事」との共催事業を実施しました。同時に定期的な広報、啓発、情報発信にも努めました。</p>	
<p>【せんだい・アート・ノード・プロジェクト】 アーティスト藤浩志氏を迎え、「ごみの資源化」プロジェクト「ワケあり雑がみ部」を実施し、仙台市環境局主催の啓発イベント「せんだい資源ナール」(会場:せんだいメディアテークオープンスクエア)で市民の活動成果を発表しました。また、沿岸部の復興と向き合うプロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」や、仙台・東北を調べて表現するアーティストの活動場所となる「東北リサーチとアートセンター」を立ち上げました。更に、仙台で活動するパートナーと協働で企画・実施するトークイベント「TALK(トーク)」, 事業を市民とともに検証するための自由参加型公開会議「MEETING(ミーティング)」を実施しました。これらの取り組みを広く発信するため、情報紙「JOURNAL(ジャーナル)」やウェブサイトなどを通じて事業に関する情報発信やアーカイブを行いました。</p>	
<p>また、自主事業を実施するにあたっては、一般財団法人地域創造による助成団体からの外部資金の調達にも努めました。諸般の情勢が厳しい中、今後も助成金の獲得に努め、活用していきたいと考えております。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>せんだいメディアテークは、市民図書館との複合施設ということもあり、年間約100万人の利用者があるが、常に施設内外の美観を保ち、利用者が快適に利用できるよう努力している点が評価できる。また、図書館の事業に加え、定禅寺通りに関する各種事業等への連携についても、良好な協力体制が整えられている。貸出施設においては、公平な施設使用許可の取扱や利用者に対する適切な支援を行うほか、施設使用時のきめ細かいアドバイスなどにより、当該施設が市民の生涯学習活動の場として支持されているものと考えられる。また、ギャラリーについては、多くの市民に利用いただけるよう、抽選後の調整を丁寧に行い、利用促進・利用率向上に努めている。</p> <p>活動支援においては、他施設にはない専門性を活かして、本市他部局や大学、NPOなどの団体と連携・協力しており、本市における生涯学習・文化芸術支援の拠点としての役割を担っているものである。</p> <p>バリアフリー事業においては、情報サービスを行う一方で、映画の音声解説や日本語字幕制作の養成講座を行い、実践の場として、受講生がボランティアとしてバリアフリー上映を開催するなどの企画も実施している。</p> <p>仙台・宮城ミュージアムアライアンスにおける館間連携を促進するとともに、大人向けの企画「プレミアムナイトトーク」を新たに実施するなど、日々事業の発展に向けて模索、認知度向上を図っている。</p> <p>また、震災後の社会的なニーズを踏まえた「考えるテーブル」「3がつ11にちをわすれないためにセンター」等の事業を継続・発展させながら実施できた点が評価できる。</p> <p>以上、せんだいメディアテークの管理運営を担う当該財団による事業運営は、これまでの運営実績により蓄積された高度な専門性と知識、外部協力者やボランティア活動との良好な関係に基づき、多様な市民の生涯学習活動における要望に適切に対応し積極的にサービス向上に取り組むなど、施設設置目的に沿った管理運営を実施しているものと大いに評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課